

6章 ディスカッション

組 番 氏名

今回の授業の位置づけ

○探究活動（課題設定→情報収集→分析と整理→まとめ・表現）のいかなる場面においても、仲間との話し合い（ディスカッション）は欠かせない。他者の考えを傾聴して受け入れ、自分の考えを明確に表現する。論理性を追求しながらも感情的にならず、和やかな雰囲気を保つことも大切だ。この授業では、**マイクロディベートを実際に行うこと**を通じて、ディスカッションの基本的姿勢を学ぶ。

ねらい

- ディスカッションの主な形態と特徴を理解する。
- ディスカッションのポイントと対話の重要性を認識する。
- マイクロディベートの実践を通じて、立論や質疑の方法を学ぶ。

準備

- 3～4人のグループを作る。
- グループの中の進行役を決める。

【1 さまざまなディスカッションと意義 （1）（2）を読む 個人】 （10分）

※先生はタイムキーパー役をお願いします

1 さまざまなディスカッションと意義

主なディスカッションの形態には、バズセッション、パネルディスカッション、シンポジウム、ディベートなどがある。それぞれの形態や特徴について簡単にまとめると、下記ようになる。

それぞれの形態や特徴をふまえて、ディスカッションで大切なことを考えよう。

(1) 主な形態と特徴

① バズセッション

- 少人数のグループで話し合い、その結果をもとに全体で討論する。
- いろいろな意見やアイデアを引き出したいが、多くの人がいる場では、なかなかそれが出しにくい時にふさわしい方法。

② パネルディスカッション

- それぞれの立場の代表者（パネリスト）が、全体の前で議論を交わし、その後、聞き手（フロア）も参加して意見を述べ合う。
- 論題について三つ以上の異なる意見がある時、それぞれの立場の相違点を考えたり、多人数の中で考えを深めたりしたい時にふさわしい方法。

③ シンポジウム

- 複数の専門家が異なる立場や角度からの講演や報告を行い、それぞれ意見を述べ、その後、聞き手や司会者の質問に応答する。
- 論題について、異なった立場や角度から検討を深めるのにふさわしい方法。

④ ディベート

- 論題について、肯定側と否定側とに分かれて意見を述べ合う。
- 論題について、賛成や反対など、二つの対立した考えがある時、立場の違いや論点をはっきりさせるのにふさわしい方法。

(2) ディスカッションの意義

① ディスカッションのポイント

ディスカッション能力においても、人の気持ちに配慮した発言ができる日本的な風土は議論に向いていないどころか、むしろ雰囲気を良好に保つためには有効であると感じる。感情的な対立を生むことなく、多様な意見を交わすことができれば、より生産的な対話を行うことができる。もちろん遠慮しすぎていては、議論は進まない。相手の考えをしっかりと理解した上で、質問をし、コメントをしていく。質問力やコメント力をつねに意識することで、場を活性化させることができる。対話の雰囲気を友好的にし、しかもクリエイティブにすることは、それほど難しいことではない。

基本となるのは、自分の意見を声高に述べることよりも、むしろ**理解力**である。相手の意図を察知し、感情を読み取る。そうした上で、**考えを深める角度のついた質問やコメント**を投げかけ、複数の視点をお互いに提示しあうことで、よりリアリティのある問題解決につながっていく。手元に紙を用意し、相手の意見の重要な事柄をメモする習慣をつける。そして、質問したいことをメモし、コメントを紙に書きつけ、用意しておく。紙にメモを書きつけながらも、できるだけ視線は話している人に向け、身体全体で反応するようにする。胸を発表者の方に向け、身体全体で聞く。相手の話を面白そうに身体全体で聞く。これが聞く構えの基本である。

論理をつかむだけではなく、**相手の感情をつかむ**ことが真の対話法である。身体全体を聞く構えにセットし、リアクションを大きくする。相手の話の中のキーワードを相槌を打つように繰り返し、共感を示すように聞く。こうして寄り添うように聞いてもらえると、発表者はリラックスできる。**お互いに意見を聞き、その上で異なる考えを受け入れながら思考を深めていく**。これが協働的な学習の基本となる。

聞く構えにせよ、積極的に発表する構えにせよ、基礎となるのは身体である。身体が他者に対して開かれていることで、場は活性化する。国際的なコミュニケーションが求められる現代では、とりわけ身体がオープンであることが求められている。軽く体を揺さぶり深く呼吸することで、相手に体を開くことができる。

② 対話の重要性

ビジネスの場面に限らず、スポーツや音楽その他の複雑な連携が求められる場面では、チーム学習がポイントとなる。チーム学習の訓練としては、対話（ダイアログ）と議論（ディスカッション）が重要であり、対話では一人の人間の理解を超えることが目指される。

自分の考えに固執する態度ではなく、**対話しながら「気づき」を得ていくのが対話である**。これは古代ギリシャのソクラテスの対話法の本質でもある。お互いの確信をぶつけあい闘争するのではなく、対話の中で、**何がわかっていて、何がわからないのかをはっきりさせていく**。これは相互協働作業である。自分がわかっていなかったことがわかったのだとすれば、それは対話している二人の勝利である。全参加者がお互いを仲間と考え、新しい気づきを喜ぶようにする。相手に議論で勝つことが目的なのではなく、**お互いの間に新しい意味が生まれるようなクリエイティブな関係を目指す**。これが対話である。

こうした対話的な関係性を練習して修得し、技としていくこと、これが真に「新しい学力」として求められるべき力といえるのではないか。まず二人の間で生産的な対話ができるようしっかりと練習し、グループ・ディスカッションになったときも新しい対話を生むのだという姿勢で全員が臨む。私たちはつい自分の価値観にこだわり自分の意見に固執しがちであるが、他者の意見を虚心坦懐に聞き入れ、よりよい意見やアイデアに向かって自分を開いていく。そうした心の在り方、考え方の在り方がすでに知性といえる。自己中心的な思考から離れ、全体をみて、新しい価値の生成に貢献する。こうしたチーム学習への参画の仕方は、練習によって培われ、練習によって身につけうる明確な「技」である。

高度化し、複雑化し続けるビジネスをはじめとした様々な領域において、**チーム学習を成立させるメンバーたりうること、そして、ファシリテーター（進行管理者）としてチームを導く能力を持つこと**。こうした能力を持つことが皆に求められるようになっている。コミュニケーション力一つとっても、現代人は高度で複雑なコミュニケーション力を求められている。ビジネスメールを一日に何十件も処理するのが仕事では当たり前になっている。相当なストレスをともなう緊張感の中で、速く正確な対応が求められる時代なのである。

『新しい学力』（齋藤孝著 岩波新書 2016）より抜粋

2 ディベート

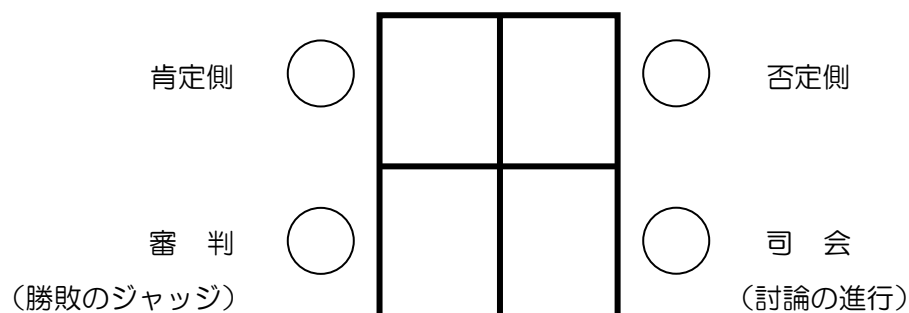
特定のテーマについて異なる立場に分かれて討論することをディベートという。

ディベートは通常、1チーム5名程度の対戦の形で行う。肯定側と否定側の2つの立場に分かれ、論題として1つのテーマを扱い、話す順番と時間を決め、ジャッジ(審判)が勝敗の判定を下すという形式をとる。

通常のディスカッションとは異なり、意見の一致をめざすよりは、話の聞き手(審判＝ジャッジ)を納得させるところにその目的がある。

今回は「マイクロディベート」という小規模の編成で行う。4名を1つのグループとして、肯定側1名、否定側1名、審判1名、司会1名という役割分担である。(3人グループの場合は審判が司会を兼ねる。)

勝敗に主眼を置くのではなく、立論や質疑応答の実際を体験し、対話によって論理の弱点に気づいたり異なる考えを受け入れつつ思考を深めていったりしながら、ディスカッションの面白さや意義を認識しよう。



課題1 マイクロディベートの準備 (40分)

(1) ねらい

- 立論能力を養う。
- 役割やテーマ決めの話し合いを通じて協働感覚を身につける。

(2) 内容(取り組むこと)

- 下記の(1)「マイクロディベートの流れ」を読んで、マイクロディベートの流れを理解する。
- 実際に役割分担し、下記(3)「ディベートのテーマ」の中から選んでテーマ決定をして、対戦の展開を構想する。
- プレーヤーの役割になった対戦については、下記(2)「ディベートの立論作成のポイント」の趣旨を生かして立論する。

ワーク1

(20分)

※先生はタイムキーパー役をお願いします

① グループ内でマイクロディベート1回戦、2回戦のそれぞれの役割を分担する。

「プレーヤー」(肯定側もしくは否定側)、「審判」、「司会進行」について、1回戦と2回戦が同じ役割にならないように分担する。3人グループの場合は審判が司会進行を兼ねる。

※ 下記の(1)「マイクロディベートの流れ」を参照する。

② 下記の(3)「ディベートの主なテーマ」から、1回戦、2回戦それぞれのテーマを相談して決める。

【1回戦】

テーマ

--

肯定側

--

否定側

--

審判

--

司会進行

--

【2回戦】

テーマ

--

肯定側

--

否定側

--

審判

--

司会進行

--

ワーク2

(20分)

※先生はタイムキーパー役をお願いします

「プレーヤー」(肯定側もしくは否定側)の役割になったテーマについて、下記の(2)「マイクロディベートの立論作成のポイント」を参考にしながら、立論する。(3名グループでは1・2回戦ともにプレーヤーになる人が必要になる)

【 回戦】 () 側立論

--

☆立論ができれば、その骨子をフローシートに書き込んで対戦に備える

(1) マイクロディベートの流れ

①	肯定側立論	2分	※立論は主張とその理由(論拠)を明確化する
	(準備時間	1分)	
②	否定側質疑と肯定側応答	2分	※質疑は立論の弱点を問う。応答は正確な対応を図る。
③	否定側立論	2分	
	(準備時間	1分)	
④	肯定側質疑と否定側応答	2分	
⑤	否定側反駁 ^{はんぱく}	2分	※質疑応答の内容を織り交ぜながら、主張の論点を印象
⑥	肯定側反駁	2分	づける。相手の揚げ足取りをせず、論理的にまとめる。
	(審査時間	1分)	
⑦	判定	2分	※印象批評ではなく判定基準の明確化してコメントする。
	所要時間	20分	(上記実働時間17分+司会進行時間)

(参考文献:三省堂『高等学校国語総合』現代文編改訂版)

(2) ディベートの立論作成のポイント

① 大事なこと(トピックセンテンス)から先に言う

明確に述べないと主張がうまく伝わらない。そこで、大事なことを先に述べ、説明は後に付け加える。

② 意見・主張には、その理由・根拠を示す。

主張をするだけでは独断という印象を与えるので、その論拠を明確にする。

③ 自分の考えの全体像(論理の骨組み)が伝わるように心がける。

部分にこだわってだらだら述べたりせず、部分と全体ということを意識に置いて述べる。

④ ナンバリング(第一に～、第二に～)を行う

ナンバリングとは、論点の数を先に示すことである。例えば、「メリットとして二つの点をあげます。」と述べた上で、「第一に～、第二に～、」と話し、「以上、二点について話しました。」とまとめる。

⑤ ラベリング(つまり、～ということ)を行う

ラベリングとは、論点を短くまとめることである。自分が話したいことを、少ない字数(目安として十字以内)でまとめておく。聞いている人はメモを撮りやすくなり、話の中心の判断が容易になる。

※上記①～⑤は小論文を作成する際にも重要なポイントになる。覚えておこう！

(3) ディベートの主なテーマ

- ①日本は首相公選制を導入すべきである。
- ②日本はすべての原子力発電を代替発電に切り替えるべきである。
- ③日本は炭素税を導入すべきである。
- ④日本は国会を一院制にすべきである。
- ⑤日本は死刑制度を廃止すべきである。
- ⑥日本は外国人労働者の受け入れを拡大すべきである。
- ⑦日本は裁判員制度を廃止すべきである。
- ⑧日本は18歳以上を「成人」とすべきである。
- ⑨救急車の利用はすべて有料化すべきである。
- ⑩高校においてボランティア活動を必修化すべきである。
- ⑪電車における優先席は廃止すべきである。
- ⑫AI（人工知能）の研究・利用に何らかの制限を加えるべきである。
- ⑬高校は義務教育化すべきである。
- ⑭大学入学の時期は他の先進諸国に合わせて9月入学とすべきである。

（①～⑦はディベート甲子園高校生大会の過年度テーマ）

【前半終了】

////////////////////////////////////

課題1 マイクロディベートの実戦 (40分)

※先生はタイムキーパー役をお願いします
1回戦、2回戦の区切りだけでOKです。

(1) ねらい

- ① 論理をわかりやすく伝える説得力を身につける。
- ② 論理の弱点を突く質問力を養う。
- ③ 論理対決の結果を正しく評価する。

(2) 内容（取り組むこと）

- ① マイクロディベートの1回戦、2回戦を実施する。
プレイヤーは立論・質疑応答・反駁を、それぞれ留意事項（フローシート表の左欄の○印）を踏まえて論戦する。司会進行は前述の(1)「マイクロディベートの流れ」に基づいて円滑な進行を図る。
- ② 1回戦、2回戦それぞれの展開を「フローシート」（別紙配布）にメモして論理の流れを追う。
プレイヤー（肯定側もしくは否定側）、審判、司会進行の全員がフローシートに記すこと。
肯定側は、ディベートを進めながら否定側の発言をフローシートにメモして、質疑や反駁に備える。否定側も同様に、肯定側の発言をメモする。審判、司会進行はそれぞれ、肯定側・否定側両方の発言の論理や効果的な表現等をメモする。
- ③ 審判は明確な判定基準を示して判定し、プレイヤーも自分の立論・質疑応答・反駁をふり返る。

ワーク1 1回戦 (20分)

ワーク2 2回戦 (20分)

振り返り <リフレクションシートの記入及び回収>

ディスカッション リフレクションシート

年		組		番号		氏名	
---	--	---	--	----	--	----	--

1 日時： _____月 _____日 () _____校時

2 振り返り

Q 1 : ディスカッションの意義を書いてください。

--

Q 2 : 立論するときに留意すべきポイントを挙げてください。

--

Q 3 : マイクロディベートを実際にやって気づいたことや考えたことを書いてください。

--

以下、該当する番号のマークを塗りつぶしてください。

Q4 マイクロディベートにあなたはどのように関わりましたか。 ①積極的にできた ②まあまあ取り組めた ③うまく参加できなかった	①	②	③			●
Q5 今回の授業の難易度はどうでしたか。 ①易しかった ②ちょうど良かった ③難しかった	①	②	③			●
Q6 今回の授業の時間設定はどうでしたか。 ①時間が余ってしまった ②ちょうどよかった ③時間が足りなかった	①	②	③			●



教師用資料 6章 ディスカッション【授業デザイン】

今回の授業の位置づけ

○探究活動（課題設定→情報収集→分析と整理→まとめ・表現）のいかなる場面においても、仲間との話し合い（ディスカッション）は欠かせない。他者の考えを傾聴して受け入れ、自分の考えを明確に表現する。論理性を追求しながらも感情的にならず、和やかな雰囲気を保つことも大切だ。この授業では、**マイクロディベートを実際に行うこと**を通じて、ディスカッションの基本的姿勢を学ぶ。

ねらい

- ディスカッションの主な形態と特徴を理解する。
- ディスカッションのポイントと対話の重要性を認識する。
- マイクロディベートの実践を通じて、立論や質疑の方法を学ぶ。

※4人のグループをあらかじめ作っておいてください。（3人のグループも可です）

時間	内容・留意点
各自読む 10分	「1(1)主な形態と特徴 (2)ディスカッションの意義」を各自読む ※「テキストの1ページから3ページまでを各自10分間で黙読してください。ディスカッションのさまざまな形態に共通する意義や取り組む姿勢を理解してください。」と指示してください。
【課題1】 ワーク1 ワーク2 40分	実際におこなうマイクロディベートの準備 ※時間を区切る必要はありません。40分間の開始と終了だけを指示してください。 「 ワーク1 、 ワーク2 それぞれ20分と書いてありますが、時間は目安です。グループで相談して、1回戦・2回戦それぞれのテーマと役割を決め、自分がプレーヤーになる対戦のために、しっかりと立論してください。『立論のポイント』は5ページにあります。小論文執筆でも活かせるポイントです。また、実際の対戦が円滑にいくように、5ページの『マイクロディベートの流れ』をしっかりとイメージしてください。」と指示してください。 【前半終了】
【課題2】 ワーク1 ワーク2 40分	ワーク1 マイクロディベート1回戦 20分 ワーク2 マイクロディベート2回戦 20分 ※対戦は余裕を持たせて20分間で設定してあります。 (5ページ「(1)マイクロディベートの流れ」参照) ※1回戦、2回戦ともに、開始と終了の指示をお願いします。それ以外の合図は不要です。
振り返り 10分	リフレクションシートに記入 ※シートの回収をお願いします

ディベート フローシート

記録者...番号・氏名

対戦： 【 1 回戦 ・ 2 回戦 】

論題： 【 】

	【肯定側】	【否定側】
番号・氏名		
【肯定側立論】 ○明快さ ○論拠の確かさ ○多角的な観点 ○ナンバリング・ラベリングの活用		← 肯定側に決まった場合はここに あらかじめ立論の骨子をメモする
【否定側質疑→肯定側 応答】 ○弱点を質問 ○質問に正確な応対	(応答)	(質疑)
【否定側立論】 ○明快さ ○論拠の確かさ ○多角的な観点 ○ナンバリング・ラベリングの活用	→ 否定側に決まった場合はここに あらかじめ立論の骨子をメモする	
【肯定側質疑→否定側 応答】 ○弱点を質問 ○質問に正確な応対	(質疑)	(応答)
【否定側反駁^{はんぱく}】 ○質疑内容も生かす ○説得力 ○論理性		
【肯定側反駁^{はんぱく}】 ○質疑内容も生かす ○説得力 ○論理性		
【ジャッジ】 ○明確な判定基準 ○判定 ○論戦を通じて得たこと		